

2007.9.15(土)~17(月)

南会津 奥只見 毛猛山塊

未丈ヶ岳 赤柴沢

佐藤英明、高山友雄、佐田務、佐藤敦子
塩見慶子、坂口光恵、五十嵐文彰(神田山の会)

9月15日(土) 晴れ

佐田務

道の駅「ゆのたに」タクシー6:00 - 出合い6:55 - キンカ沢乗り越し8:30 - 黒又ダム10:27 - 径不明瞭にて河原に下りる11:10
ゴルジュ帯 - 赤柴出合15:50

小出インター近くの道の駅からタクシーに乗り、林道終点手前で下車。林道をしばらく歩き、キンカ沢に入る。踏み跡を見つけれず、奥の右俣を詰める。水が消えると急斜面になり、補助ザイルをだしながらヤブを少し漕ぐと、踏み跡にでた。これをしばらくたどり、680mの鞍部に着く。ややこしいルートでは、高山さんのGPSが威力を発揮する。

ここから北へ下る踏み跡をたどる。踏み跡はやがて上ノ大沢右俣になり、途中から花ノ木沢を合わせ、黒又川のバックウォーターに出た。出合いには、台風で打ち上げられた流木と土砂が巨大な台地をつくっていた。ここで、八王子から来た2人組を追い抜く。大きな魚が瀬を悠然と泳いでいるのを塩見さんが見つけた。

核心部はここから。黒又川沿いに踏み跡があるはずなのだが、時に不明瞭になる。途中で沢にぶつかり、やむなく本流へ降りる。河原歩きになり、これは楽だと思っていたら、すぐに泳ぎが連続するようになる。ザイルをひんぱんに出すはめになり、時間がかかってしょうがない。

途中のゴルジュから登りあがり、神田山の会の五十嵐さんを先頭に藪の中を歩く。これが長く、しんどかった。次第に藪が濃くなり、再び河原に下りる。16時に、赤柴沢出合いに到着。もう少し先まで行く予定だったが、みんなへろへろで、ここまで

で時間切れとする。

しかしここは、いいテン場だった。広い河原で大きな焚火をつくり、みんなで囲む。英明さんの発声で乾杯。冷たいビールや敦子さんのおいしいスープカレーや光恵さんのワインやらで、とても幸せになる。

焚火を囲むみんなの顔が赤く染まる。いつのまにかみんな眠りにつき、焚火のはぜる音が時々、静かな河原にこだまする。9月も中旬だというのに、夏はまだ続いている。

高山友雄

初日、焚き火のそば、満天の星空の下で寝れて幸せ。翌日、長く続くゴルジュには疲れたが、暗くなる前に抜けて、焚き火とタープでぐったりと幸せ。最終日、ぐんぐん登って藪漕いで、暑さでもうろうとして下る。充実の3日間でした。

赤い実はナナカマドですね。もう少し熟してから梅酒の要領で漬けるとちょっぴりほろ苦くて旨い果実酒ができます。



9月16日(日) 晴れ

坂口光恵

5:40発 - 峠沢8:00 - ゼンマイ沢12:00
0 - ゴルジュ帯抜ける - テント18:30

赤柴2日目、思い出して書こうとしても、え～よくわからない！つい先日行った滝谷の印象が強いうえに、私は赤柴沢の前々週に同じ未丈岳の滝ノ沢を遡行しています。もう頭の中がゴチャゴチャです。思い出せる限りのことを書こうと思います。

一日目泊まった赤柴沢出合いからは、しばらくは、滝もなく渡渉の繰り返しでのんびり進めたと思います。腰まで水に浸かった時、体の回りに小魚が群れてきてキラキラと美しく感激しました。魚影がとても濃い沢だと思いました。

秋田小屋沢を過ぎてから滝が現れ始めました。ロープを出して越えたり、巻いたり、なかなか登りがいがありました。途中2人の釣り師がイワナを釣り上げるのに遭遇したりして、それもなかなか楽しい

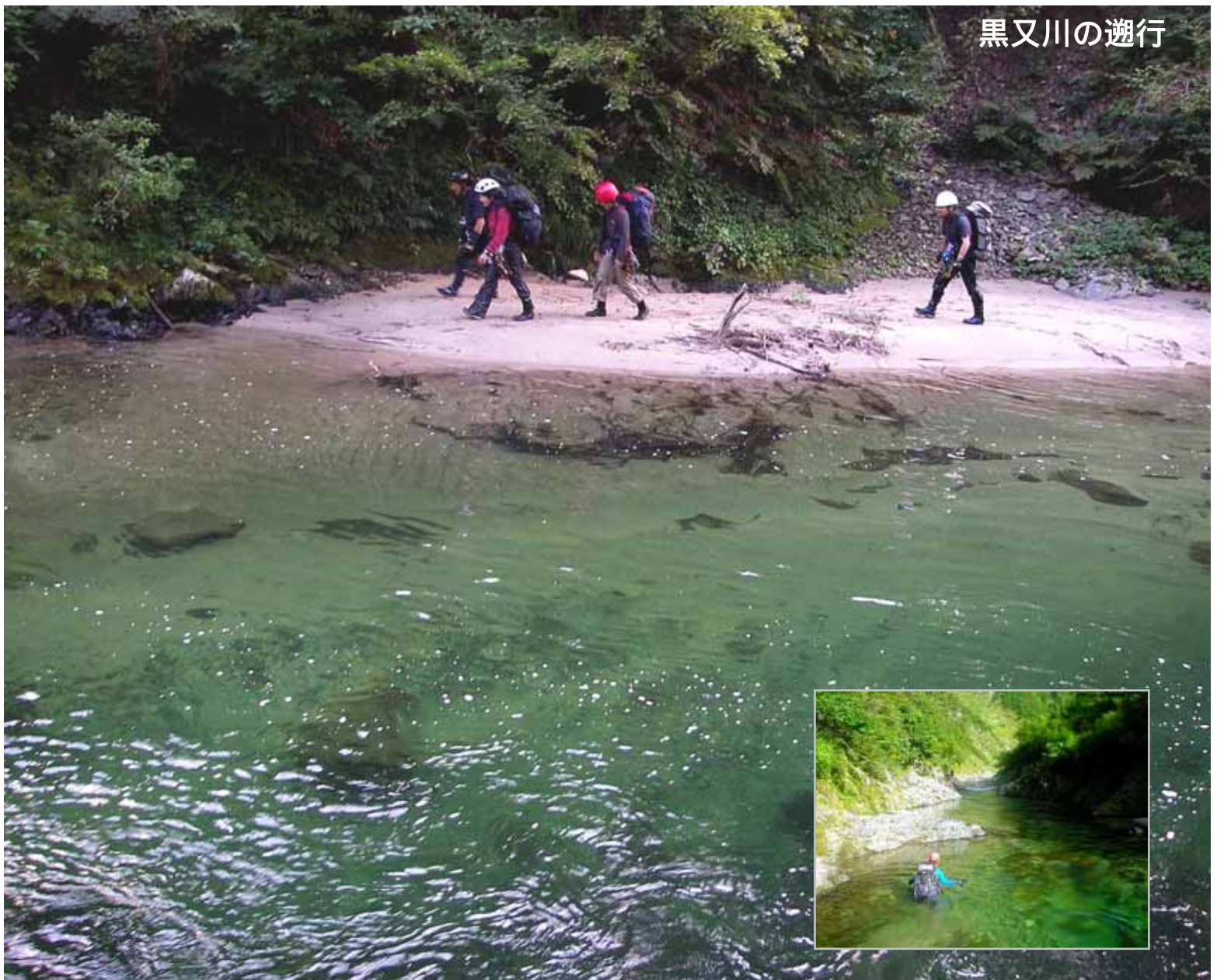
ものでした。

次のゴルジュ帯こそが赤柴沢の本来の魅力だと思います。水量は多過ぎず、少な過ぎず、ゴルジュといっても暗過ぎず、開放感があって明るい。水に浸かっても気温が高く快適でした。しかし、7人の大所帯、予想外に時間がかかって5時を過ぎてもテン場が見つからない。そこに、なんと運の良いことか！ゴルジュ帯を抜けたところで絶好のテン場が出現。薄暗いなか、英明さん達が根性で焚火をおこしてくれてタープと2人用テントで快適な一夜を過ごすことができました。感謝、感謝です。

佐田務

今回のような山深い沢は、しみじみとした趣がある。おまけに天気、テン場、そして言うまでもないことだが、メンバーにも恵まれた。

この夏の締めくくりにふさわしい沢だった。



9月17日(月) 晴れ

塩見慶子

6:00 発 - 藪突入 8:50 - 未丈ヶ岳山頂 9:40 - 出発 10:15 - 三叉の橋 13:00 - 泣沢 13:40

昨日はダワの沢出合い直下に泊まることができ、今日は時間的にも余裕ができた。ダワの沢出合付近はどこもよい幕場とはいえ、先行した釣師2名も傾斜地にタープを張っていた。私たちのテントとタープも雨がひどくなったらアウトだったが、今回は一度も雨に会うことはなかった。会津山岳会はダワの沢の出合に張っていたがまあ、ここが一番適地だったかもしれない。

ダワの沢までで、ほぼ核心部は終わっており、先人の遡行図によればこの先は、小滝が続く連瀑帯となっている。しかし実際のところ小滝と小滝の中にゴー口がありぐんぐんと高度を上げているといった感じだ。朝一番の急登はツライ。

1300m付近の二股で右か左か迷う

が、そこは感度抜群のGPS様が「右だよん」1500m付近の二股では「左だよん」と的確な判断のもと、急傾斜の藪に突入した。

先頭に行く英明さんのルートファインディングが的確で50分ほどの藪コギで再び(先日の9月2日に来た)未丈ヶ岳の山頂に立つことができた。前回と違い360度の大展望、あれは三ツ石だ、梵天だと小川Pがいるであろう山域を眺め、眼前には毛猛山、越後の山々がその雄姿を見せていた。また眼下にヘリが飛来し、遭難!?と色めき立ったが、前回に来たときに渡れなかった橋の工事関係のヘリだった。

滝ノ沢の源頭の草原で風に吹かれ、しばし至福の時間を楽しむ。そして下山。今日はこれから下る尾根がはっきり見え、逆に疲れてしまった。炎天下の中、3時間30分、ふらふらになりながら熱中症一歩手前で泣沢口にたどり着いた。炎天下でもマムシ君は元気だった。



坂口光恵

最終日は未丈岳に抜けて、前回と同じ径で下山したのですが、その時は3回もマムシに遭遇したのでとても心配でした。

今回は、気温が多少下がったせいか一回マムシらしい蛇を見かけただけで済みました。あ～良かった。

同じ山をいろいろなルートから登るのも楽しいものですね。今度は積雪期に行ってみたいです。

五十嵐文章

赤柴沢は、計画段階からいろいろ大変だったけど、そこから楽しめる山行でした。

まず、話題のキンカ沢が2万5千の地図でどこだかわからない。地図を見ながら、自分でルートをつくるワクワク感は何ともいえませんでした。小出の道の駅で、みんなで地図上で答え合わせするのは、すばらしいプレリユード。

いざ入渓してみて、ルーファイはやっぱり難しい。でも、謎解きゲームでとても楽

しい。バリエーションはこうでなけりゃいけませんね。

そういう固有のルートなんだけど、3連休だと貸切にはならず、他のパーティーもいて案外にぎやかな沢登り。これはこれで、また楽しい。

初日はとにかくアプローチなんだけど、ゼンマイ道という名のやぶこぎ三昧。赤柴沢出合についてほっと一息。それでもって大焚き火に大宴会。

二日目は、泳いでいったら岩にマムシが先に取り付いていて、後ずさりというハプニングもあったけど、泳ぎにヘツリに高巻きにと、沢登りを大いに楽しんだワンデー。日没間際になって、あきらめかけていたのにもかかわらず、最高のテンバを見つけてベリーハッピー。佐田さんのタープは、テントをしのぐスーパーシェルター。でもって、こいつは、天井が高くてスーパー快適。

三日目はツメのやぶこぎは大変だったけど、高山さんのウルトラGPSでピンで



瀬の渡渉

佐田さん

鬼塩釜

山頂。これもまた、すばらしい！

草原で記念写真をとって、酷暑の中の下山スタート。これが暑い中、長くて大変。なんとか佐田さんのクイズ？で死にそんなモチベーションを維持したのが精一杯。でも、途中でぶな弁当はきちんとたいらげました。これは僕だけかもしれないけどね・・・。

佐藤英明

一日目、ハッキリしないキンカ沢を遡行して、花ノ木沢を下降、黒又のバックウォーターに出る。地図にあるぜんまい径なんかはない。しかたないから沢(というより川)床に降りる。鯉みみたいな巨大岩魚が悠々と泳いでいる。ついでに、我々もドンブラと泳ぐ。

初日の泊まり場は赤柴沢出合い、星空の下、焚火に癒される。今夜のご飯は、札幌スープカレーとサフランライスに冷たいビールです。幸せ～。

二日目、核心は薄暗いゴルジュだった。ツルベ方式でスピードアップを図るが、なにしろ精鋭？7人の大所帯、ハーケンなんかコンコンしていたら、会津山岳会の4人が巻き越して行った。(シビレを切らしてしまったご様子。)

そんな中、ツルンツルンの丸太を曲芸渡りしようとした塩見さんがツルンと滑って下唇を切る。喋ると痛いとのことだったが、その後もよく喋っていた。

時計を見るともう夕刻、うす暗いゴルジュは屈曲しながらも延々と続いていて、出口が見えない。瀬と滝が執拗に現れて泊まれそうな場所はない。濡れたままザイルに繋がれて座り寝することになるのか？

暗くなる寸前の6時半、遂にゴルジュは終わった、そして、ゴルジュ出口に絶好のテン場を見つける。大急ぎでタープを張って流木を集める。今夜のご飯は、光恵さん作の一人鰻丸々一匹の超豪華版、でも、山椒がもう少し欲しかった。佐田さんの陸奥湾産の蒸しウニを高山さんの美味しいブランド日本酒でいただく。ヘッドランプの灯を消してキラキラの夜空を楽しむ。

三日目、小滝をいくつか越えて、いよいよ詰めとなる。源頭の湧水はevianより美味しいが、根曲竹と蔓ぐるぐるの藪に泣かされる。とはいえ、GPS様の力で密藪の中に3m四方しかない未丈ヶ岳の山頂にピタリと飛び出す。山頂の草原で記念写真を撮って、熱中症気味のフラフラ状態で泣沢に向う。

佐藤敦子

赤柴沢は遠い。いくつもの沢や尾根を経てようやく辿り着ける。そんな沢だからこそ巨大な岩魚にも出会える。一方、この沢には見せ場となる滝もナメもない。長く深く刻まれた原始の谷があるだけだ。そんな沢を敢えて遡行する私たちはマニアックかもしれない。ところが、マニアが他に3パーティーもいたのには驚いた。グラビアルートをひとつおりに経験すると赤柴のような<地味>ながら<滋味>のある沢に魅力を感じるようになるのかもしれない。

快晴の空の下、未丈ヶ岳の頂から南会津の山々の展望を楽しむ。これまで歩いてきた尾根や谷や山が一望できて感慨もひとしおだ。訪れていない山や谷には未知の魅力がぎっしりと詰まっていることだろう・・・次の山行へと夢は膨らむ。

最後に、泳げないし歩くのが遅くて、ご迷惑をおかけしました。メンバーのみなさんのおかげで素晴らしい思い出ができました。ありがとうございました。



大焚火の準備

